



高知医療センター

各局による

- ▶看護局
- ▶薬剤局
- ▶医療技術局
- ▶栄養局
- ▶事務局

クオリティ・インディケータ (QI) クリニカル・インディケータ (CI)

看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局長 田鍋 雅子

看護局からは、これまでと同様に指標データを報告します。
()内はR元年度データ
看護局では、各部署の看護の質向上をめざした部署目標の立案・実施、各委員会活動やリンクナース会活動を行っています。当センターの役割・機能を発揮できるように人材育成に注力しており、その一つである新人看護師の育成については、『新人看護師を育てることは、私たちの看護を育てること』を合言葉に取り組んでいます。新人看護師研修修了後も自分自身の教育ニーズを明確にしながら、専門職として主体的な学びを続けることができるよう支援をしています。【新卒新人看護師3年定着率】は84.6%(76.7%)とR元年から数値が改善しました。この結果は、新人看護師研修の充実と継続して新人看護師を育てる文化が定着したことへの評価とを考えます。今後は、質の高い看護が提供できる人材に成長すること

を目指して、様々な視点から育成する必要があると考えています。
【多職種カンファレンス件数】は、2,966件(2,205件)と500件以上増加という結果でした。多職種でDPC入院期間を意識した治療計画と退院支援を実践している評価と捉えます。【デスカンファレンス実施率】は、18.0%(14.0%)と4%上昇しました。専門看護師らの地道な活動や実践により、デスカンファレンスが定着しつつあると考えます。終末期の医療・ケアの質向上や、亡くなられた患者さんのご家族、職員のグリーフケアは、急性期病院であっても重要視しています。昨年度は在宅につなぎ、看取りとなったケースについて、地域の医療者との合同カンファレンスを開催できました。アセスメントやケアを共有するとともに関わった医療者のこころのケアにもつながるため、今後も地域医療者との合同カンファレンスを丁寧に重ねたいと考えています。

看護局「看護の質」インディケータ - 2020

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考			
	各種専門領域認定資格取得者率(%)	21.7	23.0	26.2	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H30年度は160/738人、R元年度は167/726人、R2年度は190/726人)			
	各種資格取得人数(人)	H30	R1	R2		各種資格取得人数(人)	H30	R1	R2
看護 1	がん看護専門看護師	3	4	5		レシピエント移植コーディネーター認定	2	2	2
	小児看護専門看護師	3	3	3		日本褥瘡学会認定師	1	1	1
	急性・重症患者看護専門看護師	2	2	2		栄養サポートチーム専門療法士 認定	1	1	1
	家族支援専門看護師	1	1	1		呼吸療法認定士	25	24	34
	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	3		心臓リハビリテーション指導士	2	2	2
	感染管理認定看護師	2	2	2		リンパ浮腫指導技術者	4	4	4
	集中ケア認定看護師	3	2	2		インターベンションエキスパートナース	7	7	7
	不妊症看護認定看護師	2	2	2		消化器内視鏡技師	7	6	9
	救急看護認定看護師	3	3	3		第2種滅菌技士	3	3	4
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1		ICLSインストラクター (ICLS・BLSインストラクター)	7	7	16
	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1	1	1		JPTECインストラクター	2	2	2
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1		JNTECインストラクター	3	3	3
	慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1	1	1		JTAS(緊急度判定支援システム)インストラクター	1	1	1
	手術看護認定看護師	1	1	1		KIDUKI(ファシリテーター)	2	2	2
	慢性心不全看護認定看護師	1	1	1		ISLS/PSLS(脳卒中初期診療)ファシリテーター	1	3	4
	がん性疼痛看護認定看護師	1	1	1		災害派遣医療チーム研修(日本DMAT)	13	13	12
	がん化学療法看護認定看護師	2	2	2		災害派遣医療従事者研修(高知DMAT)	5	10	10
	乳がん看護認定看護師	1	1	1		高知県看護協会災害支援ナース	4	4	4
	がん放射線療法看護認定看護師	1	1	1		新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	5	4	3
	日本精神科看護協会 精神科認定看護師	1	1	1		プラクティカルCTG判読スペシャリスト	6	6	6
日本看護協会認定看護管理者	7	9	9		がん領域(ELNEC-J)指導者	2	2	3	
第一種衛生管理者	4	4	4		急性期領域(ELNEC-J)指導者	1	2	2	
医療安全管理者認定	2	2	2		弾性ストッキング・コンダクター認定	2	2	1	
高知県糖尿病療養指導士	3	3	3		アロマテラピーインストラクター	1	1	1	
高知県臓器移植院内コーディネーター	3	3	3						

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考
看護 2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	78.7	81.4	84.0	年度	分子:経験年数5年以上の正規看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている
看護 3	男性看護師割合(%)	9.8	9.9	10.3	年度	分子:正規男性看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護 4	新卒新人看護師3年定着率(%)	82.5	76.7	84.6	年度	分子:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考:臨床経験3年以上は、クリニカルラダーレベルⅡに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護 5	多職種カンファレンス件数(件)	2,562	2,205	2,966	年度	分子:実施件数 分母:- 備考:チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護 6	デスクカンファレンス実施率(%)	9.6	14.0	18.0	年度	分子:デスクカンファレンス件数 分母:死亡退院患者数 備考:家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

薬剤局における『医療の質向上への取り組み』 薬剤局長 田中 聡

薬剤局からは、安全で安心な薬物療法を支えるための6つの指標を提示いたします。

R2年度はCOVID-19感染症が一般診療にも大きく影響を与えましたが、継続する診療において薬剤局ではその質の向上に努めました。年々進化する抗がん剤治療にも24時間体制で薬剤師が鑑査・調製を行う安全管理体制を維持し(指標1)、入院病棟においても医薬品の効果向上や副作用防止の観点から直接または間接的に患者さんに関わっています。例えば、TDM(薬物血中濃度モニタリング)もその一つであり、安全に抗MRSA薬(MRSA:多くの抗生物質に耐性を持つ黄色ブドウ球菌)を使用するためには必須の業務で、R2年度もその実施率は90%を超え、質の高い感染症治療をサポートしています(指標5)。また多職種連携での質疑応答は

年間4,000件以上を維持しています(指標4)。

また、薬剤局では薬剤師の質の維持の向上のために各種認定資格取得を推進しています(指標6)。R2年度には日本医療薬学会の指導薬剤師の認定を受けた者がおり、R3年度から同学会の「がん」「薬物療法」「医療薬学」「地域薬学ケア」の分野の専門薬剤師のための研修施設(基幹施設)として認定されました。また災害の分野でも、日本DMAT隊員など災害医療に欠かせない役割を担う薬剤師の育成にも力を入れています。

今後も薬剤師としての知識・スキルを高め、患者さんに質の高い医療を提供できるよう取り組みを進めていきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケータ-2020

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考		
薬剤 1	抗がん剤調製件数(件)	16,643 (61.2)	16,840 (64.3)	16,740 (64.5)	年度	分子:- 分母:- 備考:抗がん剤注射の調製と監査による安全管理()は平日1日平均件数		
薬剤 2	処方薬処方箋枚数(枚)	94,863 (303.5)	93,712 (294.7)	87,830 (272.1)	年度	分子:- 分母:- 備考:処方薬の取り揃えと監査による処方方の適正化()は平日1日平均枚数		
薬剤 3	注射薬処方件数(件)	482,418 (1,429.3)	424,804 (1,271.0)	335,564 (1,196.1)	年度	分子:- 分母:- 備考:注射薬の取り揃えと監査による処方方の適正化()は平日1日平均件数		
薬剤 4	多職種連携における質疑応答件数(件)	4,872	4,150	4,200	年度	分子:病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数 分母:- 備考:チーム医療における薬剤師の貢献度としての指標		
薬剤 5	抗MRSA薬のTDM実施率(%)	86.4	94.7	90.3	年度	分子:抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母:抗MRSA薬投与患者数(単回使用を除く) 備考:抗MRSA薬の適正使用に関する指標		
薬剤 6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	24	27	29	年度	分子:- 分母:- 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する		
	各種資格取得人数(人)		H30	R1	R2	各種資格取得人数(人)		
	日本医療薬学会薬物療法指導薬剤師	0	0	1	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	3	3	3
	日本医療薬学会専門薬剤師	0	0	1	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師	2	2	2
	日本医療薬学会認定薬剤師	1	2	1	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	2	2	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	2	2	1	日本DMAT隊員	2	3	3
	日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師	0	0	1	高知県災害薬事コーディネーター	3	4	4
	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	1	1	1	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師	7	7	7
日本病院薬剤師会感染症制御認定薬剤師	1	1	2					

医療技術局 における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 岡田 由香里

私達の生活を一変させた新型コロナウイルス感染症は、クリニカルインディケータ（CI）にも大きく影響がありました。我々の提供する医療技術を維持向上させるため個人や組織で研鑽を積むことに主眼を置いてきましたが、新型コロナウイルス感染症により研鑽の場はほぼ「中止」となりました。

●臨床検査技術部

感染対策の指標である手指消毒薬と手袋の使用量を指標としています。しかし全国的な衛生資材の不足により、これまでと同様の使用が困難となりました。幸い多くのご寄付などもあり問題なく日常業務を進めることができましたが、これらの手袋は院内の物流システムに乗っていないことが判明し、手袋の使用量が「不明」のため算出困難となりました。消毒薬の使用はやや減少しています。なお輸血後感染症は令和2年の法改正により算出中止としています。

●リハビリテーション技術部

入院患者さんを制限していく中で、医療技術局で唯一 CI の増加を認めました。また1月からはコロナ患者さんへの介入も開始。緊張しましたが労作性低酸素血症への対応など多くの学びもありました。長引く自粛生活や行動制限でフレイルや認知機能低下などが懸念され、今後ますますリハビリテーションは重要になってきます。

●放射線技術部・臨床工学技術部

学術発表や研修会の開催回数をCIにしていたため、こちらも激減しました。学会、研修会はほぼ開催中止になり、院内研修すら開催することができませんでした。徐々にオンラインやハイブリッド方式など様々な形態が定着してきましたので、今後の取り組みに期待したいと思います。

医療技術局「医療技術の質」インディケータ 2020

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考
医技1	生理検査科における手指消毒薬使用量(本)	91	90	41	年度	分子：手指消毒薬の使用量 分母：— 備考：手指消毒薬は250mlを1本とする
医技2	生理検査科における手袋使用量(箱)	133	102	算出不可	年度	分子：手袋の使用量 分母：— 備考：1箱250枚入とする
医技3	輸血後感染症検査実施率(%)	17.0	18.2	—	年度	分子：輸血後感染症検査実施数 分母：輸血患者数 備考：院外で実施された輸血後感染症検査を含む
医技4	入院患者におけるリハビリテーション実施率(%)	27.0	25.0	27.4	年度	分子：リハビリテーション実施患者数 分母：入院患者数
医技5	医療機器に関する研修開催数(回)	152	102	41	年度	分子：医療機器に関する研修開催数 分母：— 備考：メーカーによる研修を含む
医技6	放射線技術についての学会発表・講演の割合(技師一人あたりの回数)	0.55	0.48	0.07	年度	分子：放射線技術に関する学会発表数と講演回数 分母：放射線技師の職員数 備考：放射線技術の質が向上する

栄養局 における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 澁谷 祐一 次長 十萬 敬子

栄養局では開院時から各病棟に管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を行っています。

近年、栄養療法の重要性は院内全体に共有され、病棟管理栄養士の役割も認識されています。管理栄養士の業務としては、栄養不良患者さんをスクリーニングし、病状・治療経過・臨床データなどの情報を収集したうえで、それに基づいたアセスメントを行い、面談やカンファレンスなどを通じて適切な栄養介入を行っています。さらに、チーム医療としてNST(栄養サポートチーム)や緩和ケア、摂食嚥下、褥瘡対策チーム等に参加し、他職種と連携して栄養管理を行っています。

また高知県立大学との連携事業においては、「慢性腎臓病(CKD)患者さんのための食事療法手引き」をもとに毎年CKD料理教室を開催していましたが、残念ながら昨年に引き続きCOVID-19感染症対応のため延期とし、令和2年度はオンラインでの糖尿病勉強会を開催しました。

栄養局は、管理栄養士が医師の依頼を受けて行う入院・外来の栄養食事指導件数を指標としています。栄養食事指導は、慢性疾患(糖尿病、腎疾患、高血圧症等)、がん疾患、摂食嚥下困難等の患者さんを対象に行っています。入院中はもとより退院後の食生活改善につなげるため、管理栄養士の視点から各種データを評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。これらの取り組みにより、令和2年度の栄養食事指導算定件数は令和元年度より1,365件増加しています。

さらに、専門職としての質の向上のため、管理栄養士における学会等の認定取得を指標としていますが、令和2年度は、職員交代や新人採用もあり資格取得率は令和元年度より低下したものの、引き続き認定取得に向けて学会発表や研修会参加をサポートしていきます。

今後も栄養局の理念である『県民・市民の健康づくりのために、患者さんに喜ばれる食事提供とチーム医療による栄養サポートなど、栄養ケアサービスの実践』に向けて取り組んでいきます。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター-2020

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考	
栄養1	入院・外来の栄養食事指導件数(件)	3,188	3,531	4,896	年度	分子：－ 分母：－ 備考：個人・集団栄養食事指導の算定件数	
栄養2	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	244.4	188.9	154.5	年度	分子：各種認定資格数(詳細は下記) 分母：栄養局職員数 備考：専門領域の認定資格取得により栄養管理の質向上につながる。 (H30年度は22/9人、R1年度は17/9人、R2年度は17/11人)	
	各種資格取得人数(人)						H30 R1 R2
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)						4 3 3
	高知県糖尿病療養指導士						2 2 2
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本臨床栄養代謝学会認定)						2 1 1
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)						1 0 0
	病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)						4 3 3
	がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)						3 2 2
	がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師(日本病態栄養学会認定)						3 2 2
	腎臓病療養指導士(日本腎臓学会・日本腎不全看護学会・日本腎臓病薬物療法学会・日本栄養士会認定)						1 0 0
	医療安全管理者(日本病院会認定)						1 1 1
	高知DMAT隊員						1 1 1
日本栄養士会災害支援チームスタッフ						0 2 2	

事務局における『医療の質向上への取り組み』 事務局長 宮村 一郎

事務局では、当院が、県内の基幹的な公立病院としての役割を継続的に果たすことができるよう「高知医療センター経営計画」に基づき「経営の健全化」に取り組んでいます。また、医療現場において、高度急性期病院としての機能を十分に発揮するために人的及び物的な環境整備をしっかりと行い、県民、市民から信頼される公立病院として高水準の医療を安定して提供できるよう努めています。

事務局における人的環境整備として、診療情報管理士や医

療情報技師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職を必要に応じて採用するとともに、医師事務作業補助者による診断書や証明書、診療情報提供書等の書類作成、学会関連のデータ登録や調査等、医師の事務負担を軽減することにより、医師が患者さんとの時間を多くとれる体制の維持に取り組んでいます。

今後より良質な医療を安定して提供できる取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター-2020

指標番号	指標名称	H30	R1	R2	算出単位	分子/分母および備考	
事務1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	56.9	56.1	50.9	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する (H30年度は33/58人、R1年度は32/57人、R2年度は29/57人) ※複数の資格を取得している者を重複計上	
	各種資格取得人数(人)						H30 R1 R2
	診療情報管理士						12 10 10
	医療情報技師						5 5 3
	社会福祉士						10 11 10
事務2	精神保健福祉士						6 6 6
	医師事務作業補助者(医療秘書)	44	43	43	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的作業を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する	